

清流の息吹を訪ねて 川の必殺仕事人 アユカケ(番外編)

く目にも止まらず早業でアユを仕留めるく

このコーナーは、市内山ノ内で釣りに関するアドバイスなどを行う(株)フィッシュナビの代表で、「魚の専門家」の八鳥洋二さんからご寄稿いただいています。

もう神戸川にはアユの姿はありません。産卵後の川の静けさは、晩秋に相まって一層寂しさがこみ上げます。また来春、次世代のアユとの出会いを心待ちにしたいと思います。

さて今回は、私が神戸川の魚を撮影するキツカケとなった珍しい魚を紹介いたします。それはアユカケというカジカの仲間。その名の由来は、頭部(頬)に鎌状の鋭いトゲをもち、アユを引っ掛けて獲ることからきており、別名カマキリとも言われます。

今から35年前、私が小学生の頃読



全ての始まりはこの一枚にあり!

んだ魚図鑑によると、その生息域は神奈川県が北限で目撃も非常に稀。

そのため、「図鑑の中の魚」と思っていました。ところが4年前、ここ神戸川にアユカケが現れました。アユ観察をする私に、岩に化けて潜み、間合いを詰めて瞬時にアユを引っ掛ける神業を見せつけたのです。0.1秒の世界でしたが、その光景は今でも私の脳裏にシッカリと焼付いています。この日を境に神戸川は私にとって特別な場所となりました。

また、足繁く通った甲斐もあり、アユカケの写真撮影にも成功。感動のあまり震える手でシャッター押し続けていたのを今でも忘れません。小さなコンパクトデジカメでの素人丸出しの写真ですが、これが私の神戸川撮影における記念すべき最初の一枚になり、また鎌倉に生息するアユカケの証拠写真となりました。